



# LIBRARY

いわき総合高校図書委員会 平成27年11月号

## 今月のオススメ



### 《伏 贗作・里見八犬伝》 著者：桜庭 一樹

江戸を舞台に、「伏」と呼ばれる者による凶悪犯罪が頻発。小娘だが腕利きの猟師浜路は、浪人の兄と伏狩りを始める。そんな娘をつけ、何やら怪しい動きをする滝沢馬琴の息子。娘は一匹の伏を追いかけ、江戸の地下道へと迷い込む。そこで敵である伏から悲しい運命の輪の物語を聞くが・・・。

「伏」が何を思って凶悪犯罪を犯していくのか？ 「伏」というだけでなぜ殺されなければならないのか？ 「伏」に情が移ってしまう物語です。

※「伏」とは、人であって人でなく犬の血が流れる異形の者 (OY,SY)



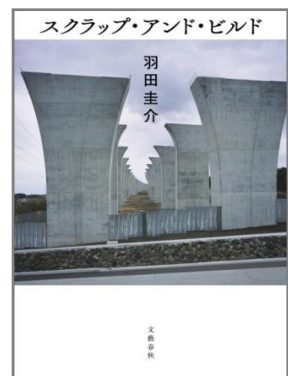
桜庭一樹さんは、男性の名前のようですが女性作家です。『伏 贗作・里見八犬伝』の他に『GOSICK-ゴシック-』シリーズが人気です。“少女”の描き方には定評があり、少女ならではの感情、葛藤、心情が痛いほど伝わってきます。女子の皆さん、図書委員オススメと合わせて桜庭さんの作品を読んでみませんか。勿論、男子にもオススメ。身近な女子の気持ちを理解するのに最適かも？！

## 新刊案内

### 《スクラップ・アンド・ビルド》 著者：羽田 圭介 2015年 第153回 芥川賞受賞作品！

主人公健斗は28歳。前職を自己都合で辞め7か月、いまだ再就職できないでいる。祖父の介護をする日々だが、就職活動をしており、将来に希望を持ち、自身の肉体を鍛えるため筋トレ、ジョギングを欠かさない。介護を描きながら、主題はタイトル通り“生命”のスクラップ・アンド・ビルド・・・。

※スクラップ・アンド・ビルド = 非能率的な組織・設備を廃止し、効率的なものに変えること。  
(大修館書店「明鏡 国語辞典」より)



**余談** 羽田さんは最近テレビのバラエティー番組によく出演しているようです。テレビで羽田さんを見て、どんな作品を書いている作家なのか？ 興味を持った人もいないのではないでしょうか。でも、ご自身はもう7・8年テレビを観ない生活をしているそうですよ。いつか、テレビの裏側を描いた小説を発表するかもしれませんね。

今回4度目の候補で芥川賞を受賞したわけですが、なんと**高校2年の17歳で文壇デビュー**したそうです。高校1年の時、綿矢りささんが17歳で文芸賞を受賞したと新聞で知り、作家に憧れていたのに何もやっていなかったことを「目の前に突きつけられた気がした」そうです。そして、「自分も純文学の新人賞をとってデビューしよう」と奮起。過去の文芸誌の新人賞受賞作を3年分くらい読み、文学賞の『傾向と対策』を練り、その結果、見事文芸誌の新人賞を獲得。

また、中学生の時は、背伸びをして世界文学（メルヴィルの『白鯨』、ドストエフスキーの『罪と罰』）や日本の古典を読んだそうです。中高生へは、「背伸びして難しい本を読んだ方がいいよ」と言っています。皆さんもドストエフスキーにゲーテ、トーマス・マン、カミュに挑戦してみましょう。

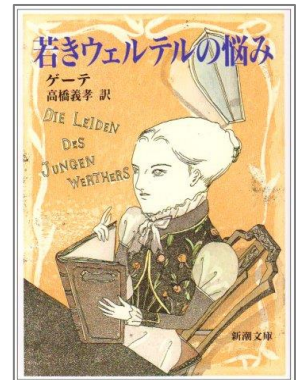
# 先生のオススメ

渡辺 英和 先生

## 《若きウェルテルの悩み》 著者：ゲーテ

「この本が自分のために書かれたのだ、と思う瞬間がなければ、その人はそうほめられた者ではあるまい」と、作者が友人に語っている有名な作品です。ゲーテ23歳の作品であり、彼の作品の基調が凝縮されているとも言えると思います。詩をこの上なく愛する青年ウェルテルが、女性ロッテと出会い、魅了され、しかしすでに婚約者アルベルトがいることを知って苦しみぬく話です。

それだけではなく、ウェルテルやアルベルト、それを取り巻く人々の多彩な人生観が随所にあらわれていて、この作品の面白さを支えています。



### ☆生徒へひと言☆

典型的な三角関係の物語ととらえられがちな本作品ですが、あまりに純粹で、社会になじめない人の苦悩を描いているともいえるのではないのでしょうか。大人になるとは、社会的成熟とは何なのかについて、ぜひ考えをめぐらせてほしいと思います。同様の“なじめない人々”を深く掘り下げた作品として、トーマス・マンの「トニオ クレエゲル」、アルベール カミュの「異邦人」もお薦めです。

### ◆図書だより編集部より◆

「若きウェルテルの悩み」は、今から240年以上前に書かれた作品です。ゲーテは数多くの詩や戯曲の名作を残していますが、弁護士や政治家として活動していた時期もあります。また、自然科学者としても業績を残しています。まさに、ゲーテは今でいう“マルチ人間”だったようです。

トーマス・マンの作品は、「トニオ クレエゲル」のほか「魔の山」、「ヴェニスに死す」が有名です。日本の作家三島由紀夫や北杜夫にも影響を与えたといわれています。1929年にはノーベル文学賞を受賞。カミュも1957年にノーベル文学賞を受賞しています。渡辺英和先生が紹介してくださいましたゲーテ、トーマス・マン、カミュの作品は、世界文学全集には必ず入っています。少し背伸びをして、世界文学全集を手にとってみませんか。



## ～図書館からのお知らせ～



耐震工事に伴い、入口から向かって左奥（窓側）の書棚3列を移動しました。

社会福祉、障害者福祉、教育、歴史、哲学、宗教に関する書籍については、

図書館内のテーブルの上に移動しました。全集関係は書庫に移動しました。

必要な場合は、司書の吉田茉耶先生まで申し出てください。

※貸出は通常通りできます。工事の関係で中央廊下が通行止めになっていますが、新刊図書も多数入りましたので、今まで通り図書館を利用してください♪